

第4回教師みらいセミナーが開催されました！

第4回教師みらいセミナー

10月26日（土） 9:30～12:00 @宮崎南高校

◎内容

「障がいのあるなしに関わらず

全ての子どもがともに学べる学級・授業づくり」

・宮崎大学教育学部 講師 尾崎充希（特別支援教育講座）

◎参加者数

会場参加 45名 オンライン参加 28名 計73名



「共生社会」とは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会です。そして、「共生社会」の形成のためには、「インクルーシブ教育（障がいのあるなしに関係なく、多様な子どもたちがともに同じ教室で学べる教育）」が大きな役割を果たします。

今回のセミナーでは、誰もが同じ教室で安心して楽しく学ぶために、教師としてどのような配慮ができるかについて、参加者同士で考えを深めました。

まず尾崎先生が、「障がい」について説明されました。

- ・障がいは、生活機能（心身機能・身体構造、活動、参加）に支障がある状態であるが、医学的な障がい・疾患によるものだけではなく社会的障壁によって障がいが生じている場合もある。
- ・社会が障がいを生み出している例として、施設や設備の障壁、情報提供の障壁、無知や偏見、無関心による障壁などがある。



次に、インクルーシブ教育を実現するための具体的な取り組みの一つとして、「誰もがわかりやすい教室環境の整備、わかりやすい授業づくり」について取り上げられ、誰もが楽しく学ぶためには、授業の「焦点化」、「視覚化」、「共有化」がポイントであることを説明されました。



以上の知識を学んだうえで、自分が小学3年生のある児童（学習面や生活面で特徴がある）の担任という想定で、その児童を含むクラスの児童が学校で友達と楽しく学べるように、どのような分かりやすい教室環境の整備・授業づくりを行えばよいか考え、グループで協議しました。座席配置を工夫する、授業に集中しやすくなるようカーテンを閉める、苦手な国語や算数でも、音楽や身体活動を取り入れて公式を覚える、クイズ形式にして飽きさせないようにするなどのアイディアが出されました。なかには、「るんるん♪片付け法」とネーミングした、ゲーム感覚で片付けに取り組むことを発表したグループもあり、会場が大いに盛り上がりました。



最後に、尾崎先生が「ユニバーサルデザイン授業づくり 12のポイント」について説明されました。障がいの有無にかかわらず、みんなが同じ教室で学ぶためにはどのような工夫ができるかについて考えを深めたセミナーとなりました。

セミナー終了後、閉講式が行われ、受講生を代表して櫛間敬太さん（宮崎南高校）に、戸ヶ崎教育学部長から受講証明書が授与されました。

受講者の感想より

○特別支援教育についてより理解が深まりました。話し合いを通して、自分にない意見を取り入れることができ、楽しかったです。自分が教員になったときに、シンプルな授業をしたり、絵や動画などを積極的に使ったり、話し合い活動を行ったりして、今回の講義で学んだことを活かしていきたいと思いました。障がいは、社会がそうさせている場合があるということを忘れずに生きていきます。

○障がいのある方に対して、配慮という形で遠ざけてしまっていることがあり、自分がそんなつもりではなくても傷つけてしまっているかもしれないことが分かりました。また、授業づくりや学級づくりで一人一人の個性となる部分を活かすことができることを知りました。とても貴重な経験となりました。

○私は養護教諭を目指しています。障がいのある子どもや特性のある子どもと接するとき、良かれと思って過保護に扱うのではなく、その子の思いをしっかりと聞いて、その子がより良く学校生活やその後の社会を送れるような教員になりたいと思いました。